



ICTと向き合う力 人と向き合う力～市ICT教育推進校～

これから時代を生きる子どもたちにとって、ICTを使いこなす力は欠かすことのできない力です。調べる・まとめる・発信するなど、学習のあらゆる場面でICTが活躍し、**一人一人に応じた教材準備や学習評価を効率よく行う上でも大きな助けになります**。まさに、子ども主体の学びを支える重要なツールといえます。

しかし、ICTだけに頼り切ってしまうと、人と人との関わりの中で育まれる力が弱まってしまう心配もあります。あるご住職の言葉が印象的でした。「ICTを使うことが悪いのではない。けれど、**人と向き合い、相手の目の動きや声の温度、胸の高鳴りといった“熱量”に気づく力が育ちにくくなる。**」

画面の向こうでは察しきれない沈黙の意味、相手の呼吸に合わせて言葉を選ぶ感覚——こうした力は、人と関わる中でしか育ちません。だからこそ、私たちはICTを便利な道具として活用する一方で、人のぬくもりを感じる時間も大切にしたいと考えています。

11月に行いました第2回学校運営協議会でも、親子であえてデジタルから離れる時間をつくる、会話や遊びを通して心を通わせる機会を確保する「デジタルデトックス」について話題にあがりました。ICTに飲み込まれないための意識的な取組を、家庭でも行っていくことの大切さについて共有することができました。

また、別の視点からICTについて考えてみると、対面でのコミュニケーションが苦手な子どもにとっては、新たな表現手段となる場合もあります。文字や画像で気持ちを伝えることができ、多くの人と一度に意見を交わすことも可能です。ICTは子どもたちの学び・交流の幅を大きく広げる力をもっています。

大切なのは、「どちらかに偏る」のではなく**ICTと人との関わりを両立させること**です。デジタルの利便性を最大限に生かしながら、同じ空間で心を通わせる経験を重ねていく。その両方を身に付いた子どもたちは、これから社会をしなやかに生き抜いていくでしょう。

私たちはこれからも、**ICTのよさを生かしながら、人の熱を感じる学び**を子どもたちと共に育んでいきます。

**ICTのよさを生かしながら
人のぬくもりを大切に**

ICTで広げる学び

- ・調べる・まとめる・発信する力
- ・個別最適な学習
- ・新しい表現手段の獲得

人と関わる中で育つ力

- ・表情や声で感じ取る力
- ・沈黙の意味や呼吸のリズム
- ・熱量に気付く感性

どちらも大切に
ICTの便利さを生かしつつ、
他者との会話やふれあいも大事にしています

本校では、甲斐市教育委員会の指定を受けICTの研究を進めています。1月28日に本校の考えるICTを生かした授業のあり方を甲斐市内の教職員を招いて授業研究会をする予定です。

